



個人研究

快適生活

毛周期制御機能と免疫抑制機構の関係 および頭皮環境が毛周期に与える影響



毛髪悩みは男女を問わず大きな悩みの1つであり、加齢につれてその悩みは大きくなる。毛周期が制御できれば、そのような悩みは一気に解消する。また、「良い頭皮から良い毛髪が生まれる」と信じられているが、それは本当らしいということが明らかになった。しかし頭皮はダメージを受けやすい部位であるようだ。頭皮とはどのような皮膚なのか、また、頭皮と毛周期の関係はどうなっているのだろうか。

KEYWORDS 毛髪、育毛、頭皮環境

RESEARCHER

応用生物学部 教授 岩淵徳郎

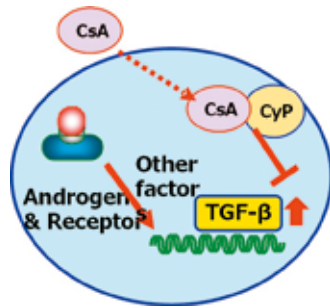


主な学会発表・論文・著書・社会活動

- [1] Effect of immunosuppressive peptidyl-prolyl cis-trans isomerase (PPIase) inhibitors, cyclosporin A, FK506, ascomycin and rapamycin, on hair growth initiation in mouse: immunosuppression is not required for new hair growth. J Dermatol Sci 9:64-69(1995)
- [2] Influence of scalp problems on physical properties of hair and its prevention by plant extracts. J Soc Cosmet Chem Jpn 52:17-23(2018)
- [3] 培養毛乳頭細胞におけるシクロスポリンA応答遺伝子: TGF-β2. 第42回日本分子生物学会年会 (福岡)

01 | シクロスポリンAの毛周期制御機構の解明と免疫抑制機構とのオーバーラップ

免疫抑制剤シクロスポリンA (CsA) は毛の成長期を延長し、多毛症を呈する強力な育毛薬剤である本薬剤の成長期延長機構を解明できれば、有効な育毛薬剤の探索方法の開発につながる。一方、本薬剤が持つ免疫抑制機構と育毛機構の分離が不可欠である。当研究室ではこの点に関して研究を行っている。



02 | 頭皮はダメージを受けて毛髪形成に悪影響を与えている

男性も女性も頭皮の酸化タンパクレベルは、前腕内側や頬よりも有意に高く、ダメージを受けている。ダメージを受けた頭皮から美しい毛髪は形成されないため、頭皮のダメージ状態の改善が毛髪形成には重要である。当研究室ではこの点を研究している。

